

新しい悦びの時代へ向けて



NPO法人

くたかけ会代表

和田重良

1948年小田原市生まれ
くたかけ生活舎での共同生活（人
生科や農作業）をとおして、青少
年や家庭の生活にさまざまなメッ
セージを送っている。

人生においても、教育を考えるためにも、一人一人にとって「今をどう生き
るか」が大切なことであることは言うまでもありません。

過去を悔んで、また未来を憂いてばかりでは新しい時代を生み出せません。
今日からイキイキと生きましよう。何歳からでも…。

才八回 子どもたちのしあわせの確保

「教育」を根本からキチンと考えると「人生」や、「社会」や「健康」やいろいろなことを考えねばならず、それは「人間って何なのだろう」ということ
につながっていきます。

ぼくは、そういう意味で「教育」と「宗教」の根
本は一つであると思っています。平たく言えばどち

「教育」を根本からキチンと考えると「人生」や、
「社会」や「健康」やいろいろなことを考えねばな
らず、それは「人間って何なのだろう」ということ
につながっていきます。

「教育」を根本からキチンと考えると「人生」や、
「社会」や「健康」やいろいろなことを考えねばな
らず、それは「人間って何なのだろう」ということ
につながっていきます。

人間の能力伸長と発揮

人間がしあわせに
生きていくためには
「知的な要素」がと

ても大切なものであることは誰でも認めることだと思
います。しかし、その大切な「知」が十分に発揮
できないものであったら「つまらない」ものになっ
てしまいます。

ぼくがこの三十年間出会って来た不登校で苦しん
だ子どもたちはたいがい苦手科目がたくさんあり、
中には勉強そのものが「拒否したくなるもの」にな
っていました。

どうしてそうなるのだろうか？と
思っ、苦手科目
をきいてみると、多くが数学、算数を挙げ、次が理
科、国語、そして英語などとなっていきます。さら
にその苦手の根源は「できない」要するに「テスト
の点がよくない」ということなのです。

でも面白いことに絵を描くことは好きとか音楽を
聴くのは好きとか、中には料理やお掃除は好きとか、

体を動かすのは大好きとかと言う子はいるのです。

そう言う子の中にも音楽や体育の時間は大嫌いと言
う子もいます。

そこで、ぼくは「知的能力」とはどういう所で活
かされるのだろうか？と生活の中でこの子たちを観察し
てみたのです。

そこで気付かされたことは「能力の伸長」は「発
揮できる仕組み」がとても大切だということでした。

能力を発揮することで学ぶよるこびになりその結果
「能力伸長」するということなのです。

逆に言うとうとうしてこんな単純な仕組みを「教育」
が見失うのか？という疑問が起こってきます。

こういう子たちに「学ぶよるこび」を味わっても
らうのにはくが基本に据えたのが「あそび」です。

「あそび」と言うのは「結果の問われない営み」
であって幼児期に最も得意とする分野です。気がつ
けば、知的な能力の伸長もこの「あそび」にこそ原
点があつて、何歳になつても大切なものなのです。

人のしあわせ

出合つて来た子ども
たちは（中には大
人になつてから来た

人たちも）たいがい「学ぶよるこび」を取り戻して
いき、独自性を発揮していききました。

遠回りしても、同じ所をグルグル回りしていても、
ちよつとでも成長できていると確認できると「しあ
わせ」なのです。

ぼくらがこういう子どもたちとやつてきたことは
「生活全般」と「農作業」や「音楽」です。その中
に「知的な要素」は満たされています。

ある子は数学や理科に目ざめて行くし、音楽を専
門にした人もいます。

結果はともかくとして、人間のしあわせはやつぱ
り「今」をどれだけ味わい深く楽しんで生きている
かというところにあるのです。ぼくと一緒に農作業
をしたからつて、農業に従事するようになった人は
いません。（息子は農業を実践していますが）です

から学ぶ内容はどんなものでも、人間の「知」はち
やんと発揮して伸びていくことはできるのでしよう。

そして、その根本に「情」という分野のはたらき
があるつてことが「人間とは何だろう」という問い
の答えには必須条件なのです。「教育」にも「生活」
にも「情」が育つことで「知」がひき出されてくる
ことは間違いありません。

詳細を書く余裕がないので簡単に言つてしまえば、
人間の本能は「個体維持」と「集団維持」の両面が
あるつてことの証拠なのです。

「教育」は「同行」
であるべきだと思つ
ています。

それは「情」というものは同質のものに触れてひ
き出されてくると言われているからです。

「同行」（どうぎょう）とは、「至らない者同士が
互いに精進し合う」という姿です。

「あそび」が生活そのものなら何事もそのことを
だつたのに「同行」でひき出
された意欲に従つて自分を大
きく磨きました。一年後には
自ら農業を研究し、たいがい
のものの栽培を手掛けるまで
に成長しました。今は全く違

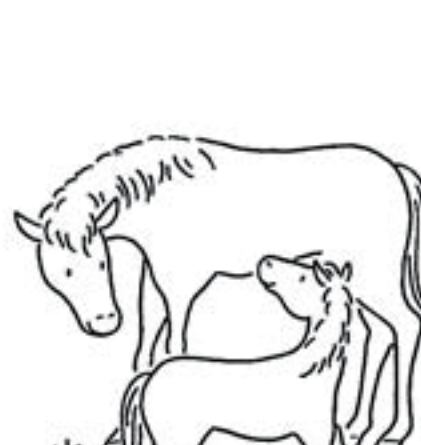


楽しみ味わい、その中に学びの姿があるのです。農
作業も音楽も苦楽を共にしてひとつひとつ精進し合
つていきます。

A君は自分で播いたタネから育てたトマトの栽培
がともうまくいき、よるこんだ体験が活きていき
ました。S君は大根のタネ播きから失敗してしまい、
その失敗の取り戻し方を先輩から学びました。

農作業は生きた教材です。それなのに、もしこれ
が点数評価の結果主義で、ほめられたり、叱られた
りしたらA君もS君もつまらなくなつてまた途中で
挫けてしまつていたでしよう。

T君は、全くのひきこもり
だつたのに「同行」でひき出
された意欲に従つて自分を大
きく磨きました。一年後には
自ら農業を研究し、たいがい
のものの栽培を手掛けるまで
に成長しました。今は全く違



う分野の家業を継いで大きな仕事をしていきます。

「小さな自分」から「大きな自分」へ成長してい
くよるこびは、狭い「知」や貧しい「情」で教育さ
れないことが必要なのです。

※こういう根源的テーマの特集は、もつともつと書
きたいことがあります。いつか「くたかけ」総力
を結集して取り組みたいテーマです。

平成26年度はなんとか教育の根本を掘り下げてい
くために「人のしあわせ」というテーマに取り組み
たいと考えています。

だつたのに「同行」でひき出
された意欲に従つて自分を大
きく磨きました。一年後には
自ら農業を研究し、たいがい
のものの栽培を手掛けるまで
に成長しました。今は全く違

だつたのに「同行」でひき出
された意欲に従つて自分を大
きく磨きました。一年後には
自ら農業を研究し、たいがい
のものの栽培を手掛けるまで
に成長しました。今は全く違

だつたのに「同行」でひき出
された意欲に従つて自分を大
きく磨きました。一年後には
自ら農業を研究し、たいがい
のものの栽培を手掛けるまで
に成長しました。今は全く違

だつたのに「同行」でひき出
された意欲に従つて自分を大
きく磨きました。一年後には
自ら農業を研究し、たいがい
のものの栽培を手掛けるまで
に成長しました。今は全く違

だつたのに「同行」でひき出
された意欲に従つて自分を大
きく磨きました。一年後には
自ら農業を研究し、たいがい
のものの栽培を手掛けるまで
に成長しました。今は全く違

だつたのに「同行」でひき出
された意欲に従つて自分を大
きく磨きました。一年後には
自ら農業を研究し、たいがい
のものの栽培を手掛けるまで
に成長しました。今は全く違